

がくじ



摂南大学図書館報

No. 46

1996. 6

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

一学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや—

*題字は王羲之の書による

図書館と文化

図書館長
(経営情報学部教授)

かみの けいいちろう
神野 慧一郎



図書館というものは、社会の文化が一定の水準に達するまでは成立しない。それゆえ図書館は文化の象徴であるとも言えよう。実際、文明の中心には図書館がある。英国のブリティッシュ・ライブラリ、パリの国立図書館、アメリカの議会図書館など数え上げるにいとまない。政府の図書館ではないが、英国で最も古い大学であるオクスフォードのボドレイアン・ライブラリは殊に有名である。

歴史上で有名なのはアレキサンドリアの図書館である。ほんの僅かな例を挙げるとしても、ここで研究した学者には、プトレマイオス王朝下においては、『円錐曲線論』を著したアポロニウスや医学ではヘロフィロス、ローマ時代に入ってから、医療機器の発明者ヘロン、天文学者プトレマイオス、医学者ガレノスなどがいた。

プラトンがアカデメイアに建てた学校や、アリストテレスのリュケイオンをその精神的先祖とするこのアレクサンドリアの図書館の意義を顕彰するには、現代語のアカデミックという言葉の語源がアカデメイアであること、フランスで大学に入る前の教育機関であるリセの元の言葉がリュケイオンであることを指摘するだけで十分であろう。この図書館を中心として発達したアラビアの哲学は、西欧中世にそのアリストテレス解釈を伝え、西欧の

中世思想の形成と近代化への大きな力となったことは周知のことである。

これらの事実は、文化の保持と学術研究の推進にとって、図書館というものがいかに重要かを示している。

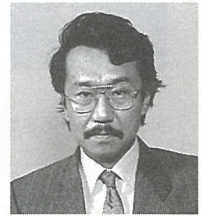
大学にとって図書館は、その顔であり、その水準の徴表である。このことは、図書館の機能が多様化した現代でもやはり変わりが無い。というのは、情報のあり方が多様化しても、客観的な思考にはやはり言語が必要だからである。単に行動するためには文字どころか言語さえも必要ではないことは、動物を見ればわかる。しかし、知的で客観的な思考のためには、結局、言語が不可欠である。そして、大学というものは人間が知的であることに意義がある故にこそ存在し、知的情報を集積し保存するのが図書であるなら、図書館は大学の中枢をなさねばならない。

本学の図書館を更に充実し、本学の地位を更に向上させ、大学に対する社会の付託に応えるのが、これからの私の義務である。しかし、私自身は極めて非力であり、図書館員一同の努力はもとよりながら、関係各位の暖かいご援助をいただかなければ、私は自分に課されたこのように大事な義務を果たせないであろうと危ぶんでいる。切に、ご助力をお願いする。

‘95年度図書コレクションの紹介（収書方法B）

『インドネシア学地域研究コレクション』

申請代表者 国際言語文化学部助教授 やまぐち まさお 山口 真佐夫



『学而』には1992年（No.29）以来今回までに『インドネシア学地域研究コレクション』の収集図書等について4回紹介している。1992年には『植民地報告書』、『オランダ領東インド雑誌』、『王立言語地理民族学研究所蔵目録』について、1993年（No.34）には旅行記について、1994年（No.39）には言語関係、1995（No.42）には地誌について紹介している。

本コレクション収集にあたっては以下の重要な基本を設けた。

- 1 インドネシアの諸言語に関する資料（辞書、文法書等）。
- 2 狭義、広義の歴史資料（資料集、統計資料等）。
- 3 参考資料（書誌、年鑑等）。
- 4 日本軍政期資料

上記のような内容面からではなく、資料の形態面からみればおもに単行本、雑誌の2つが考えられる。

95年度は本コレクション収集の最終年度ということもあり、これまでの4年間に上記の基本に基づいて収集してきた資料の補完も考え収集した。

Tijdschrift van het Aardrijkundig Genootschap (地理学協会雑誌) 1877～1883

Tijdschrift van het Aardrijkundig Genootschap (地理学協会雑誌) 1884～1896

上記の雑誌はこれまでに既に所蔵しているものの欠を補ったものである。

Nederlandsch-Indie Oud en Nieuw (新旧東インド) 13 vols.

上記のものは、重要な基本の一つである2の狭義、広義の歴史資料（資料集、統計資料等）として収集した。Vol.10以降についても今後収集していく予定である。

本コレクションとしては、本来カレント雑

誌は対象としていないが、これまでインドネシア研究には一部を除くと余り重要視されていなかったフランスにおける研究も注目するため以下の雑誌も既に所蔵するものを補完するために収集した。

Archipel (群島) 14 vols. 1976-1986

これまでに本コレクションとして収集した雑誌にはインドネシア研究にとって重要な以下のものがある（それぞれ欠号あり）。

Djawa (ジャワ)

Tijdschrift voor Nederlandsch-Indie (オランダ領東インド雑誌)

以下で本年度収集分の資料から、特に歴史、考古学、文化関係のものについて紹介したい。
R. Goris, Bali: Atlas Kebudajaan (バリ文化図録)

Gedenboek: Nederlandsch-Indische Kunst- Kring Batavia 1902-1925 (オランダ領インド芸術協会25周年記念刊行物)

R. Heine-Gedern, Alt Javanische Bronzen (古代ジャワの青銅器)

Th.B. van Lelyverd, De Javaansche Dans- kunst (ジャワの舞踏)

E. Jacobson, De Gong-fabricatie te Sema-rang (スマランにおける銅鑼製造)

95年度はおもにジャワに関するものを収集した。特に、東南アジアの文化の伝播、民族の移動の研究で著名なハイネ＝ゲルデルンの著作を収集することが出来た。

本コレクションで収集した資料によりこれまで収集したものと合わせ日本でも有数のものとなった。インドネシア研究、東南アジア研究、さらにその周辺分野の研究を志す研究者、学生諸君にも大いに利用して頂きたい。

モラトリウムと青年の憂鬱



きおか かずあき
国際言語文化学部助教授 木岡 一明

高校時代の友人は、「自分探し」の綱渡りを踏み外して、奈落へと沈んだ。

5月の連休明け、「長らくありがとう」と一言だけの手紙を輪ゴムで止めたミュージック・テープが送られてきた。天神祭りの余韻の中で、彼の訃報を聞いた。大学4年の夏。今年が17回忌となる。

これからの生徒たちに、彼の二の舞をさせてはいけない。それが、わたしの進路を決めた。贖罪感と憤りが、そうさせた。

彼と同じように、細く揺らぐ綱を渡っているあなた！どうか落ちる前に、沈む前に、書を通じて自己を読み取り、他人に自分を打ち明ける勇気を奮い起こしてもらいたい。かねてから要望していた「学生相談室」が、本学寢屋川学舎にも設置された。せめて、その室に足を運ぶ余力だけは残しておいて欲しい。

近代社会は、身体も性も、また知的にも十分に成熟した青年に、社会経済的活動への本格的な参加を猶予し、「おとな」に許された行為や欲望を抑圧してきた。それは、青年に時間的・心理的な「ゆとり」を与え、知識や技術をさらに修得する機会を保障するとともに、自分を見つめ直してアイデンティティを確立させることを企図している（E.H.エリクソン『自我同一性』誠信書房、1973）。

しかし、しだいに先進国社会では、必要とされる知識・技術が高度化し、その修得が長期化してきた。しかも、経済的豊かさを背景とした物質文明や快楽主義が人々の生活に浸透してきた。そのため、青年は「快適なモラトリウム」に長く安住し、また「おとな」たちもかつての青年の特徴であった「束の間」の「遊び」に耽るようになった。モラトリウム人間の登場である（小此木啓吾『モラトリウム人間の時代』中央公論社、1978）。

文化は爛熟し、快楽やそれを導く高い地位・報酬への憧憬を刺激し、高学歴・有名校へと子どもを幼い頃から駆り立て押し流していった。学校も家族も時間的・精神的に「ゆ

とり」を欠き、子どもは疲れ果て、勉学に倦み自分を見失っていった（山田和夫『文化なき家族の病理』大和出版、1985 本館 367.3 Y）。

達也も和也を失い自分を見失う。「自分でもよくわからないんだよ。上杉達也がどんな男か。」（あだち充『タッチ』小学館、1985）。

青年の存在主張は否定的な表現形式を採って「暴力」に、その抑圧によって「いじめ」へと変質し「自虐」・「自死」となった。青年のナルシズムは焦点を狂わせ、行き過ぎた自己愛、ダイエット、性的錯誤といった病的症状を引き起こしていった（大平 健『豊かさの精神病理』岩波新書、1990 本館 081 I 125）。

こうして傷ついた青年たちは、自分ももうそれ以上に傷つけないために、他者との距離を広げ、しかし孤立を恐れ、モノトーンの、ブランドのファッションと「やさしさ」という鎧をまとって、社会的レッテルに自ら自分を投げ入れる（大平 健『やさしさの精神病理』岩波新書、1995 本館 081 I 409）。

その自分に気付いた時、青年は自分を守ろうともがき、苦しみ、沈んでいく。それが青年の特性であるために事態は不可避であり、現代青年は自分を支える力が萎えているためにかぎりなく沈んでいく（斉藤次郎『「私探し」の綱渡り』有斐閣、1988 分館 367.6 S）。

扉を開こうとする意思、その先に息吹が蘇り、生きられる場がある。

学生相談室の開室時間と担当者は次の通りです。

◎寝屋川学舎／学生課内 0720-39-9105

月曜日	13:00～17:00	太田清史先生
木曜日	13:00～17:00	棚瀬一代先生

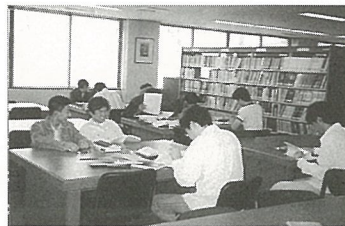
◎枚方学舎／医務室内 0720-66-3103

月曜日	13:00～17:00	竹原きみ先生
-----	-------------	--------

図書館利用統計（1995年度）

図書館では、利用者の動向を把握し、図書館運営の参考にするため、毎年利用状況を集計し、各種統計を作成しています。

今回は、主として学生利用者に関するデータを紹介します。



1. 利用状況総括データ

〈総括表〉

()の数字は前年度比

項目 \ 館	本館	分館	計
開館日数	266日 (±0)	271日 (-1)	——
入館者数	257,198 (+3,663)	182,512 (+11,792)	439,710 (+15,455)
貸出者数 (学生)	22,684 (+1,820)	3,627 (-63)	26,311 (+1,757)
貸出冊数 (学生)	44,599 (+3,913)	6,457 (-251)	51,056 (+3,662)

(注) 本館入館者数には閲覧室(3F)利用者数は含まれていません。

開館日数が本館と分館で異なるのは、本館で入学試験実施に伴う休館が多いためです。

入館者数は、本館で1.4%、分館で6.4%増加し、トータルで過去最高記録を更新しました。

貸出者数、貸出冊数は、本館でそれぞれ8.7%、9.6%の高い増加率となりましたが、分館では入館者数が増加したにもかかわらず、それぞれ1.7%、3.7%減少しています。

2. 所属別貸出状況

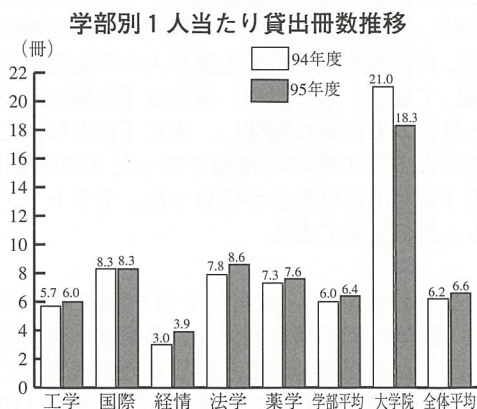
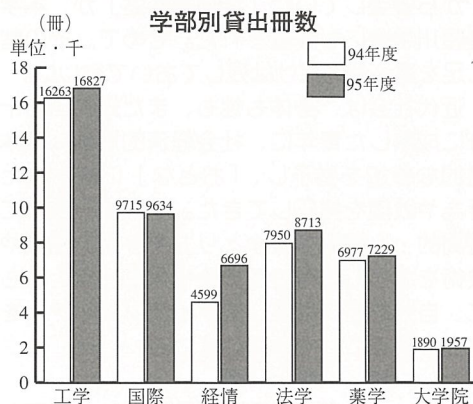
所属学部別貸出状況では、国際の微減を除き、全体的に増加しています。経情は前年度大きく落ち込んだため今回の増加が目立ちます。法学は3年連続の増加で、同学部としてははじめて8000冊台を突破しました。薬学部は、分館での貸出は減少していますが、本

館利用分と合わせると増加しています。

一人あたり貸出冊数は、最高が法学の8.6冊、最低が経情の3.9冊、学部平均で6.4冊、全体平均では6.6冊という結果になりました。

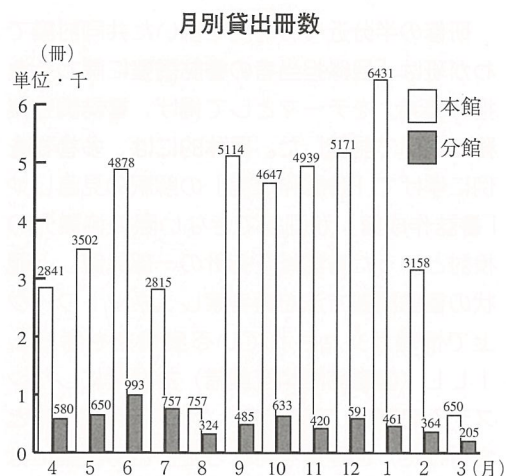
ちなみに、全国の国立大平均は8.9冊、私大平均は6.2冊、関西大手私大平均は8.2冊です。

(注：他大学等の数値は「日本の図書館'95」から独自に算出)



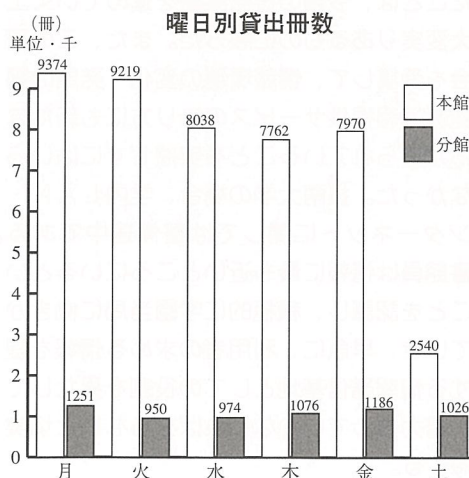
3. 月別貸出冊数

本館では、従来の6月、9月、1月の3つのピークの他に、10月から12月の利用が大きく増加しました。従来見られた11月の落ち込みがなくなり、9月から1月まで高水準で推移しています。1月は前年度比24.3%増の利用がありました。



4. 曜日別貸出

本・分館とも一週間を通じコンスタントに利用されていることがよく分かります。本館では、月・火曜日が特に利用されています。また、土曜日の利用者が前年度比20%も増えています。分館で土曜日に平日並みの利用が

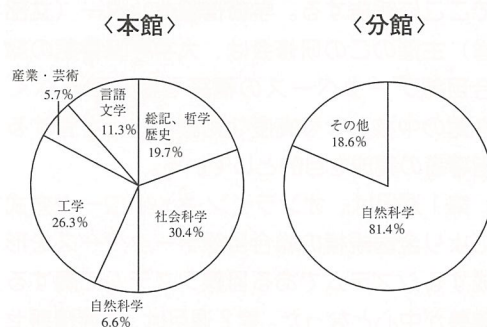


あるのは例年とおりです。

5. 分類別貸出冊数

本館・分館とも利用者の所属学部構成を反映し、例年どおりの分類別貸出比率となっています。本館では「総記、哲学、歴史」「社会科学」が微増、「工学」が前年度並み、その他は微減となっています。分館では、「自然科学」が80%を超えました。

分類別貸出冊数比率



おわりに

以上昨年度の利用状況を簡単に紹介しました。入館者については、前年度に続き、本館・分館とも増加していますが、これは開館時間の延長が効いたものと思われます。本館には他に学生数の増加（前年度比約1.7%増）という要因もありますが、分館ほど伸びていないのは、視聴覚室・学術雑誌室の開室時間の短縮がひびいたようです。

貸出者数・貸出冊数については、本館が増え、分館が微減です。分館の微減は、開館時間の延長が貸出冊数に必ずしも連動しないことを表わしています。本館の中で経情だけに学生数増という要因がありますが、他の学部にはそれはありません。法学をはじめ全体的に数字が上昇傾向にあるのは喜ばしいことで、今年度さらに伸びてほしいと思います。

図書館では今年度も、学習環境の整備を行い、各種サービスを充実させます。多くの利用者の皆さんの来館をお待ちしています。

〈研修会参加記〉

平成7年度第2回総合目録データベース 実務研修会に参加して

元 図書課整理係 こやま あきこ
 小山 晶子
(現 大阪工大図書館)

1995年11月13日から12月1日の3週間にわたって行なわれた「第2回総合目録データベース実務研修会」に参加する機会を得たのでここに報告する。学術情報センター（文部省）主催のこの研修会は、大学等図書館の総合目録データベースの構築を推進するべく、各館の中核となる高度な知識と技術を有する指導者の養成を目的としている。

第1週目は、オンライン・ネットワーク方式により全国規模の総合目録データベースを形成するシステムである目録システムに関する講義が中心となった。第2週目は、学術情報センターが現在開発中のプロジェクトに関する講義、実際の操作も体験できた。また、前もって希望調査のあった研修課題について共同討議を行なった。第3週目は講習会指導講義を受講。ちょうどこの時期に行なわれていた目録システム講習会を見学、そして共同討議についてその成果を発表した。また、研修の全課程の合間には、国立国会図書館と図書館流通センター（TRC）の見学が盛り込まれていた。

目録システムの思想の講義では、設計思想・将来構想等の説明があり、特に将来構想については今後の目録業務の動向をさぐる上で大変興味深く聴くことができた。オンライン・システムニュースレターの最新号（NO.54）にも掲載されているが、データベースの即時更新による全検索キーワードの即時作成、漢字キーワードの自動作成、I S B N等を手段とした重複レコードの作成の抑止、さらには、和洋ファイルの統合やシステムの運用上、VOLの繰り返し回数が30回までとなっているがその制限の排除、等の構想が述べられた。

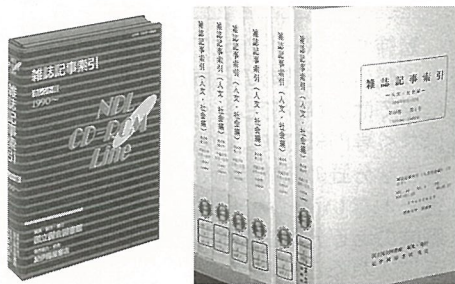
研修の半分近くの時間を割いた共同討議で、わが班は「目録担当者の書誌調整に関わる負担の軽減」をテーマとして掲げ、書誌調整業務について討議した。具体的には、多巻物を例に挙げて「書誌作成館」の解釈の見直しや「書誌作成館」が回答できない際の協議先の検討といった書誌修正指針の一部見直しと現状の書誌調整方法を再考察し、ネットワーク上で情報が交わされている実情をも考慮し、I L L（図書館間相互貸借）を参考にしたシステムの新しい調整方法（オンライン調整と名付けた）の提案を行なった。この提案には学術情報センターから大変辛い意見を頂き、班員みんな、ショックのあまり落ち込んでしまったことは今となっては大変なつかしい思い出である。

今回の研修会は全国から12名の国立、私立大学の図書館員の参加があり、他の研修会にみられない程の少人数で行なわれたものであった為、目録業務について十分に意見交換できたことは、今後の日常業務を進めていく上で大変実りあるものになった。また、この研修会を受講して、情報環境の変化・発展は図書館の情報提供サービスのあり方にも新たな対応が迫られていることを実感せずにはいられなかった。摂南大学の場合、学内LAN・インターネットに関しては整備途中である。図書館員は情報に最も近いところにいるということを認識し、積極的に学園当局に働きかけていき、早急に、利用者の求める情報を提供する情報発信基地としての役割を果たしていく努力をしていかなければならないと切実に感じる。

雑誌記事索引は CD-ROMで！

国立国会図書館刊行の冊子体『雑誌記事索引』＜季刊版＞が「人文・社会編」「科学技術編」とも、1995年12月受入雑誌分の編纂をもって刊行中止となり、以後CD-ROMなど電子媒体によるサービス提供に切り換えられました。これに伴い、図書館（本館）では、これまでご利用いただいていた冊子体「雑誌記事索引」の受入を1996年5月刊行の「人文・社会編」第48巻4号（1995年10月～12月受入雑誌分）をもって中止し、新たにCD-ROM版「雑誌記事索引カレント版」の受入を開始しました。

電子媒体でのみサービス提供されることになった「新しい雑誌記事索引」では、「人文・社会編」「科学技術編」の区別はなく、内容的には両編を統合しています。また、採録誌の拡充に力を入れており、採録誌数をこれまでの約3,000誌から約5,500誌に増加。学術雑誌に加えて一般雑誌からの採録も強化しており、「サンデー毎日」「週刊読売」「週



刊朝日」「週刊現代」「週刊文春」「週刊新潮」「週刊ポスト」「AERA」などの一般週刊誌も新しく採録誌に加わります。

CD-ROM版の検索方法には「メニュー検索」と「コマンド検索」があり、論題中の単語、論題名、雑誌名、著者名、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）、分類項目で検索できます。操作方法は簡単ですので、はじめての方でもすぐ使えます。レポートや論文を作成する際などの情報検索ツールとして、フル活用してください。

（梶 義宏）

医学中央雑誌 CD-ROM版導入

1993年9月にMEDLINEのCD-ROMが摂大図書館枚方分館に導入されて以来、多くの教職員や大学院生に利用されてきました。現在では医学・生物学分野の文献調査になくてはならないものになっています。しかし、MEDLINEにおける日本の文献の収載状況を見ますと、123誌から約1万4千件の文献情報を検索できるに過ぎません。¹⁾従って、日本の文献を調査するためにはMEDLINEは適当ではありません。

このたび、医学中央雑誌・CD-ROM版が枚方分館に導入されました。これは、医学中央雑誌刊行会が作成・提供している国内の医学関連のデータベースで、日本語で発表された論文が中心に収載されています。国内約2,300種の医学・薬学およびその周辺領域の学術雑誌に掲載された年間約20万件以上の文

献情報（原著論文・会議録・総説・症例報告など）が収録されていますので、日本の医学文献を調査するための最も重要な情報源であります。

CD-ROM版には、1987年以降の文献情報が収録されています。タイムラグが6～12ヵ月ありますが、データは年4回追加されますので、順次新しい情報を検索することができます。したがって、MEDLINEと医学中央雑誌の両方のCD-ROMを上手に使用すれば、医学関連の文献調査をさらに迅速に行うことができます。これらを最大限に利用して、研究活動に役立てて欲しいと思います。

参考文献

- 1) 山崎茂明：医学文献サーチガイド、東京、日本医書出版協会、1993、p.61

（熊懷 節子）

利 用 者 の 声

勉強やレポート作成での図書館利用だけでなく軽雑誌を読むのと同じ感覚で新聞を読みに来てはいかがでしょうか。それも一般紙ではなく専門紙です。これらの新聞には、さまざまな分野の先端技術、新製品、テレビでは得られないマイナーな情報が満載しており、興味のある分野に関係した最新の情報は必ず手に入れることがで

きます。私は就職に備えたりとか、経済に興味があるというわけではなく、ただ

単にその辺の情報誌とは違うおもしろさがあるということだけで読んでいます。また新聞の中には摂大に求人にくる企業、興味ある分野の企業の動向や今後の雇用体制など就職活動をしている人にとって知って得になる記事もよく見かけます。雑誌感覚でこれら専門紙を読むのもなかなかおもしろいと思います。

また、工大図書館の利用もお薦めします。レポート作成のため資料となる本を借りようとしたとき、すでに関係する本が出払っていることはよくあることですが、摂大図書館に

なくとも工大図書館にあることがあります。そして本を借りるだけでなく、工大図書館の“AV室”も使用できま

す。摂大図書館の“視聴覚室”も最近増えてきたようですが、まだ比にならないほどの洋

画、邦画のビデオ、レーザーディスクがここにはあります。種類は結構多く、無料で映画が見れるの

で、一度鑑賞したすとはまってしまうです。暇つぶしには絶好の施設です。

コメント：ご指摘のとおり、本学図書館では映画に関しては、娯楽的な作品はあまり置いておりません。しかし「クラシック・フィルム・コレクション」などの古典的名作、「ベンハー」などの歴史学習に役立つ映画、クローズド・キャプション機能のついた語学学習用映画を収集しております。

なお、工大図書館も結構ですが基本的には本学の視聴覚室を利用していただきたいと思います。もう少し柔らかいソフトも含めて資料の充実を図る予定ですので、学生諸君の希望もお寄せください。(図書館)



学園内図書館利用のすすめ

大学院工学研究科 1年

ひらかわ こうじ
平川 浩司

新入生対象ライブラリーツアーを実施

図書館（本館）では今年度も、新入生対象のライブラリーツアーを実施しました。実施期間は4月10日から16日までの土曜日を除く5日間（1日に昼夕の2回）でした。ツアーでは、館内各室の案内の他、配架ルールから検索機の操作方法まで図書館利用の基礎的なノウハウについて、毎回図書館員が引率し

て説明を行いました。参加者数は86人（申込者105人）でした。

このライブラリーツアーは、1994年度から始められ今年で3回目。年々実施時期を早め、今年は授業開始日である4月16日から実施、参加者数は過去最高になりました。

編集後記

- ・2月に司馬遼太郎さんが急逝された際、臨時に設けた「司馬遼太郎の本」コーナー、根強い人気があり現在もそのままにしています。あなたも夏期恒例の特別貸出を利用し、歴史長編に挑んでみてはどうでしょう。
- ・4月に設置したCD-ROM版検索システム、本年5月15日現在の最新バージョンにに取り替えしました。これに限らず、CD-ROMについては、今後その種類と内容を充実させていく予定です。
- ・今号にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

摂南大学図書館報「学而」No.46 1996.6

編集・発行 摂南大学図書館 本館 〒572 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL. (0720) 39-9112
 枚方分館 〒573-01 大阪府枚方市長尾岬町45-1 TEL. (0720) 66-3102
 印刷 (株)関西廣済堂 〒560 大阪府豊中市蛍池西町2-2-1 TEL. (06) 855-1100